

## 加治村誕生時の混乱を示す文書

尾崎 泰弘



明治 22 年加治村役場「村会書類綴込」



明治 23 年 3 月加治村助役岩沢国太郎の辞職表



加治村村長印

現在の加治地区は、昭和 18(1943)年 4 月に飯能町(当時)に合併するまで加治村であったところです。

加治村は、明治 22(1889)年 4 月、岩沢・笠縫・川寺・矢嵐・前ヶ貫・阿須・落合の 7 ヶ村が合併して誕生しました。この加治村域の中を入間川が流れています。入間川は今でこそ穏やかな川ですが、江戸時代中期から明治末までの間、平均すると 6 年に 1 回の割合でこれらの村々に水害をもたらしていました。少なくともこのあたりでは、明治中期頃までは高橋(水面よりも高いところを架け渡す橋、アップダウンが少なく川を渡ることができる)は架設できなかったため、車のなかった当時としては、地域を分断する大きな障害でした。初代加治村長の中村忠三九は、村長辞任後に以下のようなことを述べています。

「加治村が誕生して 4 年経過するが、自治体として一致していない状況は遺憾である。このたび加治村誕生時に 2 校であった学校が、(第 2 次)小学校令の実施により 3 校(中川・武宮・巖)とすることを村会が決議してしまった。この「野バンの村落」を開発するには、道路橋梁改修工事を行い全村一致団結してひとつの自治体となすことが緊要である…」

実際、この地域では加治村ができる際にも加治村役場の場所をめぐり、東の岩沢・阿須・笠縫の 3 ヶ村と西の川寺・落合・前ヶ貫・矢嵐の 4 ヶ村で対立していました。また、そのことは加治村が誕生した直後に、学校問題(1 校統合か分教場を設けるか)にも飛び火し対立が深まっていました。

今回展示した明治 22・23 年の「村会書類綴込」(加治村役場文書 No.182・183)は、その頃の混迷の様子を今に伝えています。ここからは、加治村会が明治 23 年の 1 月から学校問題によって出席議員が少なくなればたびたび流会となっていたこと、同年 3 月には助役の岩沢国太郎から辞職表が出され中村村長が慰留していることなどがわかります。

巖・武宮・中川の 3 校が合併し、加治尋常小学校に統合されたのは明治 41 年 3 月 31 日のことでした。コンクリート製の橋を車で渡り入間川の兩岸を行き来する私たちは当時の状況はなかなか理解できませんが、先人たちが地域課題を克服した先に今の社会があることを忘れてはならないのではないのでしょうか。

### 【参考文献】

飯能市『飯能市史(資料編Ⅳ) 行政一』昭和 55(1980)年 11 月

白井哲哉・須田努編『地域の記録と記憶を問い直す』平成 28(2016)年 4 月